

比べて発見！書き手の意図を読み取ろう

「新聞記事を読み比べよう」（東京書籍5年）

本単元で育成する資質・能力

課題発見力

思考力・判断力・表現力

主体性

自己肯定感

1 単元について

【考え・基礎知識】

・新聞の特徴や構成を知り、読み方を理解する。

【つながり】

・新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る。

【応用・ひろがり】

・新聞記事の特徴を捉え、目的に応じた情報への接し方や受け止め方について考えることを通して、新聞以外のメディアに対しても書き手の意図を読み取ることができる。

【単元観】

本単元の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる」である。重点指導事項は、C「読むこと」のイ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」である。

高学年になると、調べるために資料を集めるなどの読む目的が多様化する。中学年までの本を中心とした資料から新聞や雑誌、インターネットなど様々なメディアへと、その活用や情報収集の範囲も広がっていく。また、書き手の思考に即して読んでいくことは、自分の思考を論理的なものにし、考えを深めることへとつながる。

本単元では様々なメディアのうち、新聞を取り上げる。新聞は多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられている。編集については、活字や図、写真などの大きさや行数、配置などを決める割り付けが行われており、記事については、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されているといった特徴がある。本教材は、これらの新聞の特徴を理解した上で、編集の仕方や記事の書き方に注意しながら書き手の思考に即して読み、書き手の意図を読み取ることに適した教材である。

【児童観】

児童は、同系統の前単元である「動物の体と気候」で、文章構成をもとに要旨をとらえることを学んだ。82.7%の児童が文章の構成を踏まえ、教材文の言葉を使いながら要旨をまとめることができている。「読むこと」については、「内容や要旨をとらえながら読む能力」を身に付けることをねらいとしているが、目的に応じて複数の文章をくらべて読み、文章全体から内容や要旨をとらえることや自分の考えをまとめるところにまでは至っていない。

本単元に関わる児童アンケートでは「新聞を毎日読む」という児童は31.2%で、新聞に親しんでいるとは言えない。掲載内容については事件や出来事の報道記事だけでなくコラムや投書などさまざまなコンテンツで構成されていることを知っている児童は多いが、書かれている内容の読み取りについては難語句等もあり、理解につなげる読みをしている児童は限られている。また、新聞をとっていない家庭は34.3%であり、ウェブ上の情報に接している児童もいる。全体として、新聞記事の内容について読み取る経験はほとんどしていない。

【指導観】

本単元では、記事と写真との関係に注意しながら書き手の意図を読み取る力を身に付けることができるようにする。そのために、導入では普段新聞を読んでいない児童が「新聞を読みたい。」と思えるように教室に新聞を置くなど学習環境を整備する。第一時では写真だけで構成した「四季が丘新聞」や見出しや写真を切り抜いた新聞をもとに、本物の新聞との違いを見出すことで、興味・関心をもって新聞記事の構成と写真の役割を読み取ることで、また、書き手の意図は記事や写真を関係付けて考えると読み取れることに気付くことができるようにする。

本単元のねらいに迫る手立てについては、同じ出来事を取り上げた記事の読み比べを仕組むことで同じ出来事に対しても、書き手の伝えたい内容には違いがあることに気付くことができるようにする。見出しや写真などを比べ、その効果を考えたり、記事のリード文から内容の大体をつかんだり、記事の内容の共通点や相違点を見つたりすることを通して書き手の意図を読み取ることができるようにし、書き手の思考に即して読むことや自分の思考を論理的に整理し、考えを深めることができるようにしたい。

また、総合的な学習の時間で、地域の魅力を北広島町の民泊家庭に伝える新聞記事を書く活動を位置付け、学習後は本単元の学びを活用して、新聞記事を書くためにはどうしたらよいかという課題を自ら発見することにつなげる。書き手の意図によって新聞記事の内容や写真が変わるという既習をつなげ、どんな記事をどうやって伝えるかという意図をもって効果的な写真を選んだり、見出しを書いたりしながら新聞作りに取り組むことを通して、本単元で付けた資質・能力の伸長につなげたい。

2 単元の目標

○新聞記事には意図があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
○二つの記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取ることができる。

○書き手の意図を考えながら、見出しの効果や工夫を読み取ることができる。【読むこと イ】
○新聞記事を読み、記事の中の表現の工夫について気付くことができる。【読むこと ウ】

【伝国 イ(ケ)】

3 単元の評価規準

資質・能力 思考力・判断力・表現力	・新聞記事の特徴や構成について収集した情報をもとに、二つの新聞記事を比較したり、関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の意図を読み取っている。	
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・新聞記事について関心を持ち、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。	・二つの記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取っている。 (イ) ・書き手の意図を考えながら、見出しの効果や工夫を読み取ることができる。 (ウ)	・新聞記事を読み、記事の中の表現の工夫について気付いている。 イ(ケ)

4 指導と評価の計画(国語 全6時間)

次	時	学習活動	評価	
			教科の評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
単元前		課題の設定(総合的な学習の時間) ・北広島町の民泊先の方々に自分たちが知らせたい地域の魅力を、「どんな方法で、どんなこと」を伝えたいかを話し合う。		
第一次	1	課題の設定(国語科) ・学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習計画を立てる。 記事と写真との関係に注意しながら、書き手の意図(読み手に伝えたいメッセージ)を読み取ることができる。	【関】新聞について関心を持っている。 (発言・ノート)	これまで新聞をあまり読んだことがなかったけど、どんなことが書いてあるのか、気になってきたよ。
	2	情報の収集 ・新聞の特徴や役割、記事の構成や写真の役割について理解する。	【読】新聞の特徴や役割を知り、記事の構成や写真の役割を読み取っている。 (発言・ノート)	文章の構成や書き手の意図については「動物の体と気候」で学習したことを使って考えたいね。
	3	整理・分析 ・二つの新聞記事の共通点と相違点をベン図等を使って整理しながら読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容を読み取る。	【読】二つの記事を読み比べ、写真や見出しに気をつけて、それぞれの記事の内容を読み取っている。 (発言・ノート) 【言】新聞記事を読み、記事の中の表現の工夫について気付いている。 (発言・ノート)	同じ事実についての新聞記事なのに、見出しや写真が違うね。
	4	整理・分析 ・二つの新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る。(本時)	【読】二つの記事を読み比べ、それぞれの書き手の意図を読み取っている。 (発言・ノート)	【思考力・判断力・表現力】 ・新聞記事の特徴や構成について収集した情報をもとに、二つの新聞記事を比較したり、関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の意図を読み取っている。 (発言・ノート)
	5	まとめ・創造・表現 ・記事と写真に合った見出しを書き、それぞれの良さや工夫について交流する。	【書】記事の内容や写真に合う効果的な見出しを考え、書き手の工夫を読み取っている。(発言・ワークシート)	友達と助言し合うことで、初めに考えていたものよりも記事や写真に合う見出しになったよ。
	6	振り返り ・パフォーマンス課題を解き、新聞記事に表れた書き手の意図を読み取ることができたかを次の三つの視点で振り返る。 1 本単元で習得したことと既習とのつながり【知識・理解】 2 形成した自分の考えを表現し、目的に応じ互いの考えを伝え合ったこと【思考力・判断力・表現力等】 3 思考の過程等の客観的な捉え【主体的に取り組む態度】	【読】新聞記事を読み比べてとらえた書き手の意図が、新聞記事の特徴に表れていることを確かめている。 (発言・ノート) 【関】学習したことをもとに、これから毎日少しずつでも読み方を工夫して新聞を読もうとしている。 (発言・ノート)	これから新聞を読むときは、記事の書き手の意図を考えながら読もうと思います。
単元後		情報の収集(総合的な学習の時間) ・伝えたい内容を決め、必要な情報や写真を収集する。 整理・分析(総合的な学習の時間) ・国語科での学びをもとに、新聞に書く情報を整理する。 ・必要な内容や情報を選び、新聞を書く。 まとめ・創造・表現(総合的な学習の時間) ・異なるグループで交流し、書き手の意図を読み取るとともに新聞記事や見出し等に対し、助言し合い、修正する。 実行・振り返り(総合的な学習の時間) ・新聞を基に北広島町の民泊先の方に伝え、自己の学びを振り返る。		

5 本時の目標

・二つの新聞記事を読み比べ、それぞれの書き手の意図を読み取っている。

【読むこと イ】

6 本時の展開

	学習活動（時間）	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準（評価方法）
課題の設定	1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。（5分）	◇二つの新聞記事の共通点や相違点について比較・分類した資料をグループで整理し、本時のめあてにつなげる。 ◎二つの新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。	
	2 A社の新聞記事の書き手の意図と理由について自分の考えをノートに書く。（4分）	◆新聞記事や整理した資料から読み取った書き手の意図と理由をノートに書く。 ◆新聞記事の本文、リード、見出しや写真、また整理した資料に立ち返ることで、書き手の意図をとらえやすくする。 ・A社の書き手の意図は、アユのシーズンがやってきたことだと思います。そう考えた理由は、本文の結論にそう書いてあるからです。	
情報の収集	3 全体で交流する。（10分）	◆書き手の意図の書き方について共通理解を持てるようにする。 ◆知らせたい内容が表れている文章に印をつけたり、付箋を整理したりしながら書き手の意図を視覚的に捉えられるようにする。	
	4 B社の書き手の意図と理由について自分の考えをノートに書く。（10分）	・B社の書き手の意図は、多摩川をさかのぼるアユが一千万匹をこえた。多摩川はついによみがえった。ということだと思います。そう考えた理由は、見出しやリード、本文をつなげて読み取ると、「よみがえった。」という言葉が何度も出てきたからです。 ◆B社はなぜこの写真を選んだのかを問い、書き手の意図を捉えるには文章からだけでなく写真を読み解くことも大切な手がかりであることに気づけるようにする。	
整理・分析	5 全体で交流し、本時のまとめをする。（6分）	◎書き手の意図は、新聞記事の本文、リード、見出しや写真を関係付けたり、共通点や相い点を整理したりして、伝えたいことの本質を見つけると読み取ることができる。 A社：初夏の多摩川に江戸前アユが一千万匹以上帰ってきた。今年もまたアユのシーズンがやってくる。 B社：以前生き物が姿を消した多摩川に一千万匹をこえるアユがさかのぼってきた。地元住民や行政の努力で多摩川はよみがえった。	【思考力・判断力・表現力】 ・新聞記事の特徴や構成について収集した情報をもとに、二つの新聞記事を比較したり、関係付けたりしながら比べて読むことで、書き手の意図を読み取ることができる。
まとめ	6 本時を振り返り、次時につなげる。（10分）	◇本時のねらいである「読むこと」や「付けたい力」を意識した振り返りを書けるように視点を明確にする。	【読】 ・二つの記事を読み比べ、それぞれの書き手の意図を読み取ることができる。（発言・ノート）
		【例】ぼくは、A社の書き手の意図はアユのことだとすぐにわかったけど、B社の方の書き手の意図を読み取るのは難しかったです。なぜかという写真がロングでとってあったからです。だから、見出しや写真、リード、本文の大切な文章に線を引くと、アユが川をさかのぼることと多摩川がよみがえったということが書き手の意図ではないかと考えました。それは、人々の生活や力が関わっていることから、写真は多摩川全体と人々を写しているものになっているのだと気がきました。新聞記事の書き手の意図は、このように見出し・本文・リード・写真をつなげると読み取ることができると分かりました。これから、新聞を読んだり書いたりするときに、今日の学びを使っていきたいです。	
振り返り		◇本時の学びを資質・能力の視点で価値付ける。	

7 板書計画

